

## 市街地空間におけるバリアの実態に関する研究 (その5)

## - 既存の商店街の比較からみた考察 -

日大生産工 (院) ○野田 りさ 日大生産工 川岸 梅和

## 1. はじめに

人口減少や少子高齢化、中心市街地の衰退化、地域コミュニティの希薄化等、我が国における相互補完・相互扶助のあり方はより重要性を増してきている。子どもから高齢者、障がい者(児)等、可能な限り誰もが自立し、安心して過ごすことが可能なノーマライゼーションの理念に基づいた環境づくり・まちづくりは今後より重要であると言えよう。

本研究は、「市街地空間におけるバリアの実態に関する研究」において、中小企業庁「平成21年度商店街実態調査報告書」の中で定義<sup>注1)</sup>されている1) 近隣型商店街、2) 地域型商店街、3) 広域型商店街、4) 超広域型商店街の定義に相当する関東圏の4つの既存の商店街をケーススタディとして研究対象にし、各商店街の実態を報告した既報に引き続く一連の研究である。

本稿では、これまで一連の調査で明らかになった4つの既存の商店街において、利用者意識・運営者意識に視座を置き、比較を通じて市街地空間(商店街)におけるバリアの実態について報告する。既存の商店街における問題点や課題の比較を通じて、今後の市街地空間(商店街)におけるノーマライゼーションに向けた環境づくりに関する基礎的知見を得ることを目的としている。

## 2. 調査概要

## 2. 1. 調査対象地区(表1)

本研究においてケーススタディとし、調査対象にした各商店街の概要は以下の通りである。

## 1) 近隣型商店街ケーススタディ: 大久保商店街(千葉県習志野市大久保地区)

大久保商店街は千葉県習志野市大久保地区に位置し、周辺に大学や高校等の教育機関、私鉄駅等を有し、地域居住者や通学・通勤者等が利用する近隣型商店街である。主要な通りは時間式歩車併用道路であり、業種別<sup>注2)</sup>にみると、「販売施設・店舗」が最も多く、次いで「飲食施設」が多い構成をした商店街である。

## 2) 地域型商店街ケーススタディ: 津田沼1丁目商店街(千葉県習志野市津田沼地区)

津田沼1丁目商店街は千葉県習志野市津田沼地区

に位置し、周辺にJRや私鉄駅、大型量販店を複数有した地域型商店街である。3つの通りで構成された商店街だが、主要な通りは「ぶらり東通り」という面的な歩車分離道路である。業種別にみると、「飲食施設」が最も多く、次いで「販売施設・店舗」が多い構成をした商店街である。また、「習志野市交通バリアフリー基本構想」の中で重点整備対象地区と位置付けられておりバリアフリー化を促進している。

## 3) 広域型商店街ケーススタディ: 船橋駅前商店街(千葉県船橋市本町地区)

船橋駅前商店街は千葉県船橋市本町地区に位置し、JRや私鉄駅、大型量販店や百貨店を有した広域型商店街である。主要な通りは面的な歩車分離道路であり、業種別にみると、「飲食施設」が最も多く、次いで「販売施設・店舗」が多い構成をした商店街である。また「船橋市移動円滑化基本構想」において重点整備地区として歩行空間の改善等が実施された。

## 4) 超広域型商店街ケーススタディ: 銀座通り(東京都中央区銀座地区)

銀座通りは東京都中央区銀座地区に位置し、私鉄(地下鉄)駅を有し、百貨店、高級専門店が立ち並び世界的にも有名な超広域型商店街である。主要な通りは面的な歩車分離道路であるが、土日祝日の午後(概ね12時~18時、季節によって異なる場合がある)は歩行者天国を実施している。業種別にみると、「事務施設・オフィス」が最も多く、次いで「飲食施設」、「販売施設・店舗」の順に多い構成をした商店街である。

表1 調査対象商店街における業種別店舗状況

|                | 大久保    |        | 津田沼    |        | 船橋     |        | 銀座     |        |
|----------------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|--------|
|                | 1      | 0      | 4      | 3      | 10     | 23     | 45     | 128    |
| 製造業施設          | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      | 0      |
| 事務施設・オフィス      | 0      | 0      | 4      | 3      | -      | -      | 134    | 46     |
| 金融業施設          | 0      | 2      | 0      | 4      | 0      | 11     | 1      | 13     |
| 販売施設・店舗        | 74     | 22     | 11     | 18     | 10     | 23     | 45     | 128    |
| その他の商業・業務施設    | 28     | 9      | 11     | 10     | 3      | 6      | 31     | 48     |
| その他の医療施設       | 9      | 3      | 17     | 1      | 5      | 0      | 32     | 12     |
| 飲食施設           | 46     | 17     | 11     | 26     | 13     | 32     | 96     | 90     |
| 娯楽施設           | 10     | 3      | 1      | 8      | 4      | 12     | 30     | 4      |
| スポーツ施設         | 3      | 1      | 0      | 1      | -      | -      | -      | -      |
| 大学・専門学校等の教育施設  | -      | -      | -      | -      | -      | -      | 0      | 5      |
| その他の教育・科学・情報施設 | 4      | 5      | 3      | 4      | 0      | 1      | 2      | 5      |
| 通信施設           | -      | -      | -      | -      | -      | -      | 1      | 0      |
| 休憩・作業施設        | 1      | 0      | -      | -      | -      | -      | -      | -      |
| 合計             | 176    | 62     | 58     | 75     | 35     | 85     | 372    | 351    |
|                | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% | 100.0% |

【凡例】 □: 個人営業店舗 ■: チェーン店舗

## Research on the Realities of Barriers in Urban Areas

- Discussion Based on a Comparison of Different Shopping Streets -

Risa NODA and Umekazu KAWAGISHI

## 2. 2. 調査方法

### 2. 2. 1. 利用者ヒアリング調査 (表 2・3)

4 商店街において、商店街を利用する利用者に対して、対面による聞き取り調査を実施した。調査は平日・休日共に 10 時～18 時に実施し、10 代から 80 代以上までの男性・女性に対して行った。調査対象者数等は以下表 2 に示す通りである。また、表 2 の中に含まれる健常者以外の内訳を表 3 に示す。

表 2 利用者ヒアリング調査対象者数

| 単位:人  | 大久保商店街 |    | 津田沼1丁目商店街 |    | 船橋駅前商店街 |    | 銀座通り |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|-------|--------|----|-----------|----|---------|----|------|----|----|----|----|----|----|----|----|----|
|       | 男性     |    | 女性        |    | 男性      |    | 女性   |    |    |    |    |    |    |    |    |    |
|       | 平日     | 休日 | 平日        | 休日 | 平日      | 休日 | 平日   | 休日 |    |    |    |    |    |    |    |    |
| 10代   | 11     | 12 | 11        | 10 | 12      | 12 | 19   | 14 | 13 | 10 | 20 | 14 | 10 | 12 | 10 | 11 |
| 20代   | 16     | 15 | 10        | 11 | 13      | 11 | 10   | 9  | 12 | 11 | 11 | 14 | 10 | 9  | 12 | 11 |
| 30代   | 10     | 10 | 10        | 10 | 10      | 10 | 12   | 12 | 12 | 10 | 13 | 10 | 10 | 10 | 10 | 12 |
| 40代   | 10     | 12 | 10        | 10 | 11      | 10 | 10   | 14 | 12 | 11 | 11 | 11 | 14 | 11 | 10 | 10 |
| 50代   | 11     | 11 | 10        | 11 | 11      | 10 | 12   | 11 | 12 | 10 | 12 | 13 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 60代   | 10     | 10 | 10        | 10 | 11      | 11 | 18   | 13 | 14 | 11 | 12 | 10 | 10 | 10 | 10 | 11 |
| 70代   | 10     | 10 | 10        | 10 | 12      | 12 | 10   | 11 | 13 | 12 | 12 | 12 | 10 | 10 | 10 | 10 |
| 80代以上 | 5      | 5  | 5         | 5  | 5       | 5  | 7    | 5  | 5  | 6  | 5  | 5  | 5  | 5  | 5  | 5  |
| 合計    | 83     | 85 | 76        | 77 | 85      | 81 | 96   | 91 | 93 | 80 | 96 | 90 | 79 | 77 | 79 | 79 |

調査時間:10:00～18:00 天候:晴れ

表 3 利用者ヒアリング調査対象者概要

| 子育て世代             | 大久保商店街            |    | 津田沼1丁目商店街        |    | 船橋駅前商店街      |    | 銀座通り         |    |
|-------------------|-------------------|----|------------------|----|--------------|----|--------------|----|
|                   | 男性                | 女性 | 男性               | 女性 | 男性           | 女性 | 男性           | 女性 |
| ベビーカー使用(20代)      | ベビーカー使用(30代)・・・7名 |    | 妊婦(30代)          |    | 妊婦(30代)      |    | 妊婦(30代)      |    |
| ベビーカー使用(30代)・・・5名 | 妊婦(20代)           |    |                  |    |              |    |              |    |
|                   | 妊婦(30代)           |    |                  |    |              |    |              |    |
| 身体不自由             | 福祉用具未使用(80代)      |    | 福祉用具未使用(50代)＊    |    | 福祉用具未使用(50代) |    | 福祉用具未使用(70代) |    |
|                   | 福祉用具使用(70代)       |    | 福祉用具使用(70代)      |    | 福祉用具使用(60代)  |    | 福祉用具使用(80代)  |    |
|                   |                   |    | 福祉用具使用(60代)・・・2名 |    | 福祉用具使用(70代)  |    | 福祉用具使用(80代)  |    |
|                   |                   |    | 福祉用具使用(70代)・・・2名 |    |              |    |              |    |
|                   |                   |    | 福祉用具使用(80代)・・・4名 |    |              |    |              |    |
|                   |                   |    | 福祉用具使用(60代)・・・1名 |    |              |    |              |    |
| その他               |                   |    | 福祉用具使用(70代)・・・5名 |    |              |    |              |    |
|                   |                   |    | 福祉用具使用(80代)・・・2名 |    |              |    |              |    |
|                   |                   |    | 福祉用具使用(80代)・・・2名 |    | 外国人(70代)     |    |              |    |
|                   |                   |    | 福祉用具使用(80代)・・・2名 |    | 外国人(70代)     |    |              |    |
|                   |                   |    | 福祉用具使用(80代)・・・2名 |    | 外国人(70代)     |    |              |    |
|                   |                   |    | 福祉用具使用(80代)・・・2名 |    | 外国人(70代)     |    |              |    |

福祉用具とは、「福祉用具法」において「心身の機能が低下し、日常生活を営むのに支障がある老人、または心身障害者の日常生活の便宜を図るための用具及びこれらの者の機能訓練のための用具ならびに補装具」と定義されており、本調査対象者は主に「杖」等の「歩行補助具」を使用している。  
＊ 過去に車椅子使用の経験があり、現在は福祉用具を使用していないが、歩行が不自由である。

### 2. 2. 2. 運営者アンケート調査 (表 4)

4 商店街において、営業する店舗に対してアンケート調査を実施した。アンケートは各店舗に訪問し配布、店舗を営業する責任者に回答してもらい、後日回収する配票調査形式を採用した。アンケートの回収率等に関する概要を以下表 4 に示す。

表 4 運営者アンケート調査概要

| 調査対象 (調査期間) | 大久保商店街 (2010年8月) | 津田沼1丁目商店街 (2010年8月) | 船橋駅前商店街 (2011年8月) | 銀座通り (2012年8月) |
|-------------|------------------|---------------------|-------------------|----------------|
| 配布部数        | 169              | 133                 | 93                | 127            |
| 回収率         | 87.0%            | 56.4%               | 72.0%             | 58.3%          |

### 2. 2. 3. 目視・実測調査

4 商店街において、空間特性や実態を把握することを目的とし、目視・実測調査を実施した。加えて、利用者意識調査及び運営者意識調査から明らかになったバリアについての確認調査も目視により実施した。

## 3. 利用者ヒアリング調査結果

### 3. 1. 来街目的 (商店街で行う活動) (図 1)

来街目的 (商店街で行う活動) に関して、男性の場合、大久保は「飲食」が最も高い割合を占め、津田沼、船橋、銀座は「買い物」が最も高い割合を占めている。女性の場合、全ての商店街で「買い物」が最も高い割合を占める結果となった。

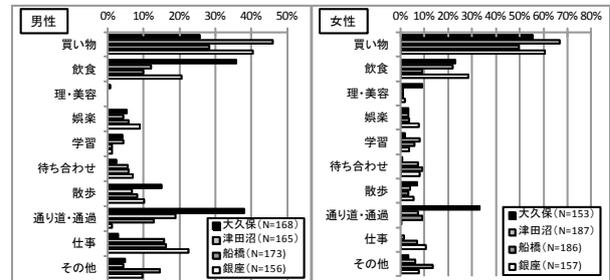


図 1 来街目的

### 3. 2. 来街理由 (商店街で行う活動の理由) (図 2)

来街理由 (商店街で行う活動の理由) に関して、銀座の男性は「仕事」、銀座の女性は「なじみの店」が最も高い割合を占め、大久保、津田沼、船橋は男性女性共に「近くて便利」が最も高い割合を占める結果となった。

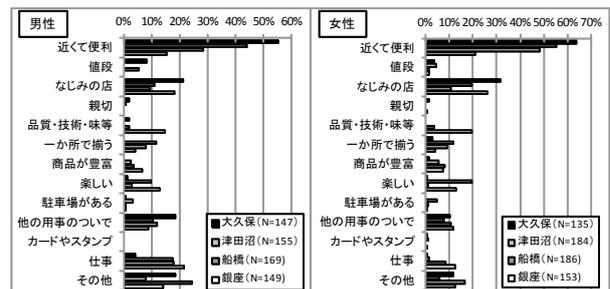


図 2 来街理由

### 3. 3. 滞在時間 (商店街で行う活動の時間) (図 3)

滞在時間 (商店街で行う活動の時間) に関して、男性の場合、大久保、津田沼、船橋は「1 時間未満」、銀座は「2 時間以上 3 時間未満」が最も高い割合を占めている。女性の場合、大久保は「1 時間未満」、津田沼は「2 時間以上 3 時間未満」、船橋は「1 時間以上 2 時間未満」、銀座は「5 時間以上」が最も高い割合を占めている。大久保を除き、男性より女性の方が商店街に滞在する時間が長い結果となった。

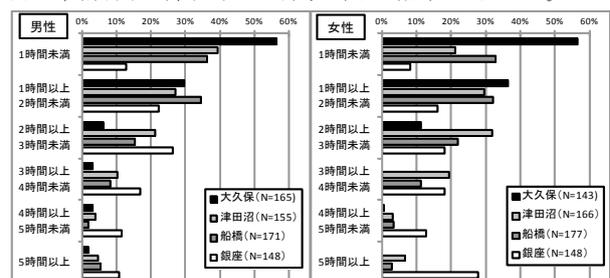


図 3 滞在時間

#### 4. 運営者アンケート調査結果

##### 4. 1. 営業年数 (図4)

営業年数に関して、個人営業店舗の場合、大久保は「50年以上」、津田沼、船橋は「1年以上5年未満」、銀座は「10年以上20年未満」、「50年以上」が最も高い割合を占めている。チェーン店舗の場合、大久保は「1年以上5年未満」、「5年以上10年未満」、「10年以上20年未満」、津田沼、船橋は「5年以上10年未満」、銀座は「10年以上20年未満」、「50年以上」が最も高い割合を占める結果となった。

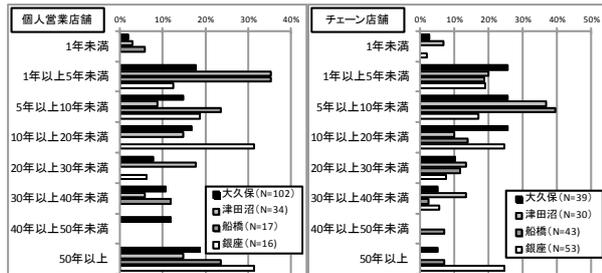


図4 営業年数

##### 4. 2. 商店会加盟状況 (図5)

商店会加盟状況に関して、個人営業店舗においては、大久保を除く津田沼、船橋、銀座では半数以上が加盟しており、チェーン店舗においては船橋、銀座が半数以上加盟している結果を得た。

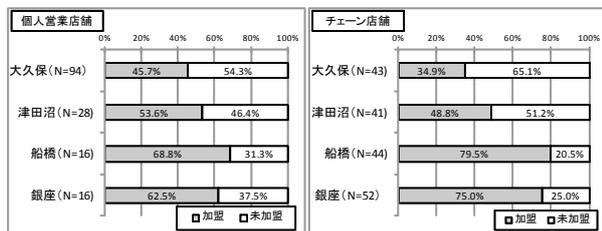


図5 商店会加盟状況

##### 4. 3. 健常者以外の利用者把握 (図6)

店舗側が把握している健常者以外の利用者に関して、大久保が約77%、津田沼が約71%、船橋が約68%、銀座が約83%であり、全ての商店街で概ね7割以上が「把握している」と回答した。具体的に把握していると回答した健常者以外の利用者の内訳は図6に示す通りである。

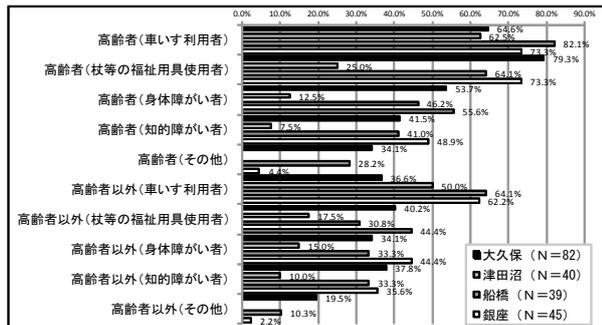
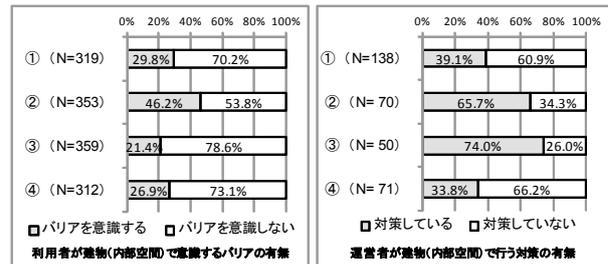


図6 健常者以外の利用者把握

#### 5. 建物(内部空間)における問題点

##### 5. 1. 利用者が意識するバリアの有無と運営者が取り組む対策の有無 (図7)

建物(内部空間)において利用者が意識するバリアの有無に関して、大久保は30%、津田沼は46%、船橋は21%、銀座は27%が意識すると回答した。津田沼の結果が最も高い割合を占めているが、全ての商店街で半数以下が意識しない結果となった。更に、各店舗が自店で取り組むバリアフリー対策の有無に関して、大久保は39%、津田沼は66%、船橋は74%、銀座は34%が対策している意識がある結果となった。



①: 大久保商店街、②: 津田沼1丁目商店街、③: 船橋駅前商店街、④: 銀座通り

図7 利用者意識と対策の有無

##### 5. 2. 利用者が意識するバリアの種類と運営者が取り組む対策 (図8・表5)

利用者が意識するバリアの種類に関して、全ての商店街で「入り口の段差」が最も高い割合を占めており、津田沼や銀座では「階段」に関する高い割合を占める結果となった。各店舗が自店で取り組む対策に関して全ての商店街で入り口の段差や階段への対策(エレベーターの設置や手すりの設置等)が行われている実態があることを裏付けた。

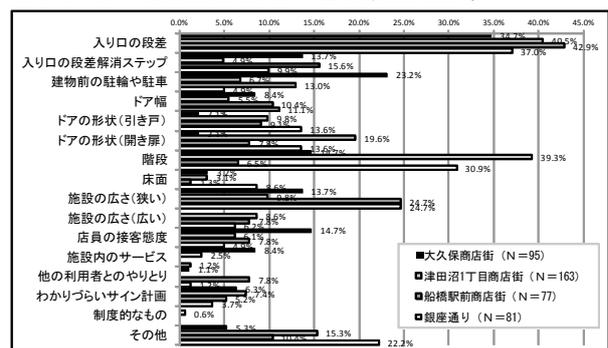


図8 利用者が意識するバリアの種類

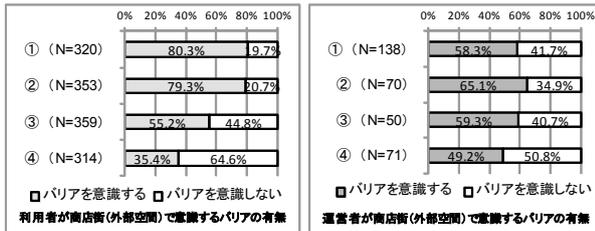
表5 運営者が自店で取り組む具体的な対策

|                  | 大久保商店街        | 津田沼1丁目商店街      | 船橋駅前商店街           | 銀座通り           |
|------------------|---------------|----------------|-------------------|----------------|
| ・段差解消ステップを設置した   | 18店           | ・スロープを設置した 2店  | ・段差解消ステップを設置した 6店 | ・ドアの有効幅を確保 12店 |
| 入り口              | ・マットを敷いた 4店   | ・マットを敷いた 2店    | ・マットを敷いた 2店       | ・段差を無くした 17店   |
| ・段差を無くした         | 52店           | ・段差を無くした 21店   | ・段差を無くした 34店      |                |
| ・改裝時に通路との段差を無くした | 1店            |                | ・スロープを設置した 2店     |                |
| 階段               | ・エレベーターの設置 2店 | ・エレベーターの設置 30店 | ・元々段差は無い 4店       | ・エレベーターの設置 14店 |
| その他              |               |                |                   | ・階段の両側に手すりを 8店 |
|                  |               |                |                   | ・店内の通路幅の確保 10店 |
|                  |               |                |                   | ・滑りにくい床材の使用 1店 |
|                  |               |                |                   | ・点字ブロックの設置 1店  |
|                  |               |                |                   | ・人的サービス 2店     |

## 6. 商店街（外部空間）における問題点

### 6. 1. 利用者・運営者が意識するバリアの有無（図9）

商店街（外部空間）において利用者が意識するバリアの有無に関して、大久保は80%、津田沼は79%、船橋は55%、銀座は35%が意識すると回答し、運営者が意識するバリアの有無に関して、大久保は58%、津田沼は65%、船橋は59%、銀座は49%が意識すると回答した。大久保及び津田沼では運営者の方が利用者よりも意識する割合が高く、船橋及び銀座では利用者の方が運営者よりも意識する割合が高い結果となった。



①：大久保商店街、②：津田沼1丁目商店街、③：船橋駅前商店街、④：銀座通り

図9 利用者・運営者が意識するバリアの有無

### 6. 2. 利用者・運営者が意識するバリアの種類（図10）

利用者・運営者が商店街（外部空間）において意識するバリアの種類に関して、大久保の場合、利用者は「走行中の自転車・バイク・車」、運営者は「歩道の凸凹（段差）」や「歩道の障害物（看板・自転車等）」を意識し、津田沼及び銀座の場合、利用者・運営者共に「歩道の凸凹（段差）」、船橋の場合、利用者・運営者共に「歩道の障害物（自転車）」、また運営者は「客引き・キャッチセールス」を意識するという結果を得た。

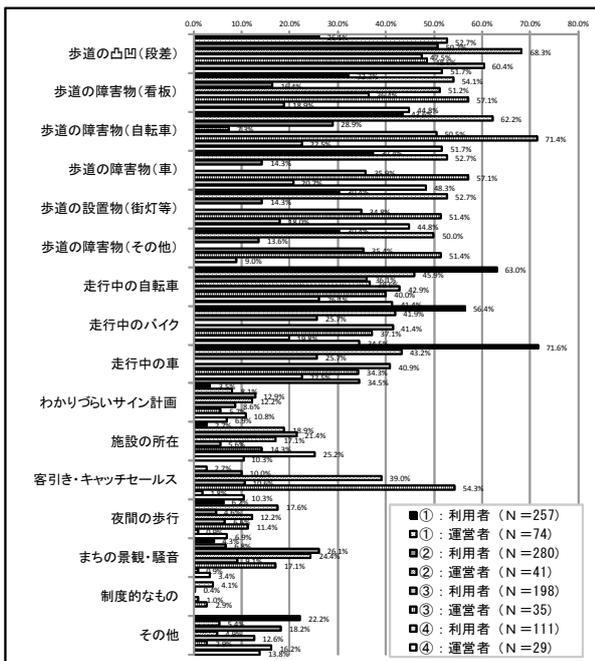


図10 利用者・運営者が意識するバリアの種類

## 7. まとめ

本稿では、関東圏における4つの既存の商店街をケーススタディとして研究対象にし、利用者意識・運営者意識に視座を置き、比較を通じて市街地空間（商店街）における実態とノーマライゼーションに向けた環境づくりに関する基礎的知見として、利用者意識の特性と運営者意識の特性について明らかにした。建物（内部空間）において全ての商店街利用者が「入り口」の段差等をバリアとして意識しており、運営者も「入り口」における対策を講じている状況を裏付けた。また、商店街（外部空間）において全ての商店街で利用者・運営者共に「歩道（街路空間）」における凸凹（段差）や障害物、走行する自転車等をバリアとして意識していることを裏付けたと言えよう。

## 8. 今後の課題

今後は、街路の溢れ出し等も考慮したハード面から更に考察を深めると共に、福祉のまちづくりを実践する市街地（商店街）の取り組みについてその実態を捉え、比較を通じてノーマライゼーションに向けた環境づくりについて更に調査・研究を実施する。

### 参考文献

- 1) 中小企業庁：平成21年度中小企業庁委託事業 平成21年度 商店街実態調査報告書 概要版、(株)ちばぎん総合研究所、2010.3
- 2) 大阪府建築士会建築情報センター 編：CI/SfB 実用的な建築情報の分類法、大阪府建築士会、1979.11
- 3) 習志野市：習志野市交通バリアフリー基本構想、2005年3月
- 4) 船橋市：船橋市移動円滑化基本構想、2002年3月

### 注釈

- 注1) 参考文献1) pp.2の中で、商店街タイプは以下に定義されている。1) 近隣型商店街：最寄品（消費者が頻繁に手軽にほとんど比較しないで購入する物品。加工食品、家庭雑貨など。）中心の商店街で地元主婦が日用品を徒歩又は自転車などにより買物を行う商店街、2) 地域型商店街：最寄品及び買回り品（消費者が2つ以上の店を回って比べて購入する商品。ファッション関連、家具、家電など）が混在する商店街で近隣型商店街よりもやや広い範囲であることから、徒歩、自転車、バス等で来街する商店街、3) 広域型商店街：百貨店、量販店を含む大型店があり、最寄品より買回り品が多い商店街、4) 超広域型商店街：百貨店、量販店を含む大型店があり、有名専門店、高級専門店を中心に構成され、遠距離から来街する商店街。
- 注2) 業種はインターネットでの事前調査及び目視調査より、各商店街で運営する店舗・施設の業種について（参考文献2）の建築分類法を基に分類している。複数階に渡りテナントを展開している店舗は1件としてカウントしている。（例：Aビルの1階～5階は同メーカーの衣類販売店の場合は「販売施設・店舗」1件としてカウント。）また、百貨店や大型量販店等に関しては、「販売施設・店舗」に分類している。

### 本論文に関する既発表論文

- 野田りさ、川岸梅和：利用者意識からみた商店街の現状並びに課題について 商店街におけるバリアに関する研究、日本建築学会計画系論文集、第78巻、第690号、pp.1783～1791、2013.8
- Risa Noda and Umekazu Kawagishi: Study on the Welfare Environment in Shopping Streets regarding the Properties of Awareness Barriers and Spatial Barriers Perceived by Users and Operators in Different Shopping Streets, THE 9TH INTERNATIONAL SYMPOSIUM ON ARCHITECTURAL INTERCHANGES IN ASIA TECHNOLOGICAL ADVANCEMENT IN ARCHITECTURE, October 22～25,2012, KDJ CONVENTION CENTER, GWANGJU, KOREA
- 野田りさ、川岸梅和、北野幸樹：市街地空間におけるバリアの実態に関する研究（その2）—習志野市津田沼1丁目地区をケーススタディとして—、2010年度日本建築学会関東支部審査付き研究報告集6、pp.89～92、2011年8月
- 野田りさ：市街地空間におけるノーマライゼーションに向けた環境づくりに関する研究（近隣型商店街と地域型商店街の比較からみた考察）、修士論文
- 野田りさ：商店街におけるノーマライゼーションに向けた環境づくりに関する研究、博士論文